

文学散歩「寅彦先生の散歩道」に参加して

四 宮 義 正

高知県立文学館で開催されている、寺田寅彦没後80年記念「親愛なる寺田先生～師・寺田寅彦と中谷宇吉郎展～」の関連行事として、標題の文学散歩が2016年1月11日（月）に開催されました。9時20分から受付とのことでしたが、少し前から大勢の方がロビーに集まっているので驚きました。当初の募集は30名でしたが50名になったとのことでした。



まず2階の展示室に集合して、学芸員の永橋さんによる解説を聞きました。日本地図による「ゆかりの地」説明で、太平洋に面した土佐と日本海に面した加賀の風土の違いが二人の性格や作品に影響を与えているとの説明に納得しました。遺品類、火花放電の研究論文、雪の研究、絵画と随筆、残した言葉などについても教えていただきました。

その後、文学館の門田さん、静岡県立大学の細川光洋先生の案内で、ゆかりの地巡りに出発です。曇り空でしたが歩くと寒くありません。高知追手前高校では門外から時計台のある校舎、江ノ口小学校では門内で寅彦のレリーフがある顕彰碑を見学し小津神社へ向かいます。ここでは奉納の燈籠と石橋、玉垣の名前刻印を確認し、久万川堤防から北山を遠望し寺田家墓所まで移動。人でいっぱいになりながら、高知城の位置を確かめ、^{いちご}苺の匂いのするキャンドルライトを灯してお参りしました。

細川先生の「ここに初めて建ったのが夏子さんのお墓であることを考えると堪らなく悲しい気持ちができる」とのお話しに頷きました。山を下って長丁場の歩きで寺田寅彦記念館横の生涯学習センターに到着し昼食。寺田寅彦記念館へ移動する頃には陽が射していました。記念館はもう紅葉は終り、土佐^{うらく}有楽がたくさん咲いており、肥後椿も数輪花をつけています。また、^{まゆみ}檀の可憐な花もありました。

細川先生が「庭の追憶」を朗読し、築山に丹波栗があったこと、楠が飛び石のすぐわきにあったことを説明しました。片麻岩の窪みや干支燈籠の浮き彫りも確認できました。

文学館のアンケートに記入して、寅彦の好きだったイチゴの入った大福餅をいただき、城西公園へ向かいます。昼顔文学碑を見て公園内から高知城の下の^{すべりやま}辻山（寅彦少年が昆虫採集に熱中した場所）を歩いて文学館へ帰りました。

大人数で、しかも足の弱い人が多かったのですが、省略コースを設けたり墓所へ救護用の車を用意したりと主催者の安全面での配慮が素晴らしく、長時間の散歩を楽しく無事に終了しました。お世話いただいた関係の皆様には感謝です。